

2013年2月14日

横浜ゴム、ロシアのタイヤ生産能力を年産160万本に

横浜ゴム(株)は、ロシアのタイヤ生産販売会社ヨコハマ R.P.Z.のタイヤ生産能力を現在の年間140万本から160万本に拡大する。既存工場内での能力拡大を計画しており2014年秋にはフル生産に入る予定。投資金額は5億円。横浜ゴムのロシアでのタイヤ販売本数は年間300万本に達しており、現地生産能力本数の2倍以上となっている。こうした状態を少しでも解消し、地産地消をより強化するのが狙い。

ヨコハマ R.P.Z.はロシアでのタイヤ生産を目的に2008年12月に設立された。2012年5月に新タイヤ工場の開所式を開催し、現在、内径13~18インチの乗用車用タイヤ「C. drive2」、乗用車用スタッドタイヤ「ice GUARD iG35」などを生産している。これらタイヤをロシア国内で販売しているが、将来的には一部商品を欧州にも輸出する計画。

2013年夏に、当初計画である年間生産能力140万本のフル生産に入る予定。さらに今回の投資により、2014年秋に年間生産能力を160万本へ拡大することになる。

■ヨコハマ R.P.Z. の概要

事業内容： 乗用車用タイヤ、SUV用タイヤの生産販売

敷地面積： 29ヘクタール

代表者： 鈴木伸一

従業員数： 557人(2012年12月末現在)

所在地： Special Economic Zone of Lipetsk Region, Russia



ロシア・リベツク州に建設したヨコハマ R.P.Z. のタイヤ工場

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム(株)広報部 担当：田中
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570